

健康で心豊かに長生きをしましょう。

令和3年12月29日

村山 章

先日の日曜日を利用して各工場の大家さんにお歳暮を届けてきました。ある大家さんでは奥さまが出てきてくださり、「いつもいつもすみません」と明るく丁寧に対応いただいたばかりか「野菜持っていきますか」と笑顔で言われたのですが、手を横に振って「結構です」と言って帰ってきてしまいました。仕事の関係で急いでいたとは言え、なぜそのとき野菜をもらってこなかったのかと後悔しています。忙しさにかまけて心の豊かさやゆとりを失っていると反省しました。この奥さまのように明るく元気な方は周りを幸せにしますね。

ある会社から毎月「ニューモラル」という小冊子を送っていただいています。昭和44年9月の創刊以来、人としての行いと共に、その元となる心のあり方（心遣い・考え方）を提唱されています。令和3年11月号(No.627)には次のように書かれていました。

『『うれしい』『ありがたい』『助かった』などの温かい言葉、心やすらぐ言葉を発するためには、結局、私たちの内面がそのような状態でなければ不可能でしょう。普段から人に対する温かい思いや社会に対する建設的な考えをもっていたら、折りに触れてそうした言葉が口を衝いて出てくるのではないのでしょうか。反対に人や社会に対して不満を抱き、いつも何かを求めることばかり考えていると、つい不満の言葉が漏れる状況になるのかもしれない』。

現在、私たちの日常生活はモノに溢れ、なに不自由ない生活を送れるようになりました。このように世の中が豊かになったと言われる背景には、戦後の廃墟のなかから立ち上がって懸命に生きてこられた方々の弛みない努力があったからです。まずは力強く生きてこられた皆さんに感謝、感謝ですね。そして少しでも明るく、健康管理に充分気を付けて元気に、多少は勉強も忘れずに、一日一日を大切に誠心誠意生きることが重要であると思います。人様の立場から思いやる温かい心が自分自身をも幸せにしてくれます。